

CONTENTS

特集
Special Features

システムレベルデザイン

System Level Design

- 449** 編集にあたって 黒坂 均・荒木 大
Foreword Hitoshi KUROSAKA (NEC Electronics Corp.) and Dai ARAKI (InterDesign Technologies Inc.)
- 451** システムレベルデザインに向けて 今井正治
Toward System Level Design Masaharu IMAI (Osaka Univ.)
- 456** システムレベル設計フローと設計言語 黒坂 均・竹村和祥・橋 昌良
System Level Design Flow and System Level Design Languages for SoC Design Hitoshi KUROSAKA (NEC Electronics Corp.), Kazuyoshi TAKEMURA (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.) and Masayoshi TACHIBANA (Kochi Univ. of Technology)
- 464** システムのモデル化と計算モデル 大塚正人・荒木 大・吉田紀彦
System Modeling and Models of Computation Masato OTSUKA (Fujitsu Ltd.), Dai ARAKI (InterDesign Technologies Inc.) and Norihiko YOSHIDA (Saitama Univ.)
- 471** 動作合成技術の動向 塚本泰隆・温 兆祺
Trends in High Level Synthesis Technology Yasutaka TSUKAMOTO (Ricoh Co., Ltd.) and Siu-Ki WAN (Mentor Graphics Japan Co., Ltd.)
- 477** アサーションベース検証 温 兆祺・吉永和弘
Assertion-Based Verification Siu-Ki WAN (Mentor Graphics Japan Co., Ltd.) and Kazuhiro YOSHINAGA (Skill Corp.)
- 484** ハードウェア/ソフトウェア協調シミュレーション技術 野々垣直浩
Hardware/Software Co-simulation Nobuhiro NONOGAKI (Toshiba Corp.)
- 492** 低消費電力化設計と消費電力見積り 荒木 大・竹村和祥・齊藤博文
Low Power Design and Power Estimation Dai ARAKI (InterDesign Technologies Inc.), Kazuyoshi TAKEMURA (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.) and Hirofumi SAITOH (SANYO Electric Co., Ltd.)

解説
Articles

- 500** 正確な学習よりも得する学習—誤分類コストを考慮する分類学習— (2) 解決編 鈴木英之進
Profitable Learning Outperforms Accurate Learning - Misclassification-Cost-Sensitive Learning - (2) Solutions Einoshin SUZUKI (Yokohama National Univ.)
- 510** 裸眼立体視技術の最新動向 新津 靖
Recent Developments of Glass-Free 3D-Displays Yasushi NIITSU (Tokyo Denki Univ. / Netplus Co., Ltd.)
- 518** SQL の 20 年と現状および今後の展開 (前編) 芝野耕司
Twenty Years of The SQL Standard - Present and Future Development Issues Part 1 Kohji SHIBANO (Tokyo Univ. of Foreign Studies)
- 522** 電子政府実現に向けての欧州の取り組み 山岡正輝・廣田和也
Challenges for Pan-European eGovernment Masaki YAMAOKA (NTT Data Corp.) and Kazuya HIROTA (NTT Data AgileNet L. L. C.)

506 スマートタグ Auto-ID ラボとその活動 宇夫陽次郎
Smart Tag : Auto-ID: What It Works For ? Yojiro UO (Auto-ID Labs Japan / Internet Initiative Japan Research Lab.)

528 プログラム・プロムナード トランプの1人遊び 石畑 清
Program Promenade : Gap Solitaire kiyoshi ISHIIHATA (Meiji Univ.)

516 インターネット生活向上委員会 Wiki で情報共有 堂前清隆
For the Happy Internet Life : Collaboration with Wiki Kiyotaka DOUMAE (Internet Initiative Japan Inc.)

536 20世紀の名著名論 Prominent Books and Articles in the 20th Century
J. W. Goodman, F. J. Leonberger, S.-Y. Kung and R. A. Athale : Optical Interconnections for VLSI Systems 成瀬 誠
J. W. Goodman, F. J. Leonberger, S.-Y. Kung and R. A. Athale : Optical Interconnections for VLSI Systems Makoto NARUSE (National Institute of Information and Communications Technology)

537 20世紀の名著名論 Prominent Books and Articles in the 20th Century
Zvi Kohavi : Switching and Finite Automata Theory 安浦寛人
Zvi Kohavi : Switching and Finite Automata Theory Hiroto YASUURA (Kyushu Univ.)

538 日本のIT事情 協創時代の知識経営に—知的プラットフォーム寸描(2)— ひろのかずお
Information Technology in Japan : For Knowledge Based Management or Dialectic Management at the Age of Collaborative Works - Smartware or Intelligent Platform (2) - Kazuo HIRONO (Tech-Journalist)

540 アメリカITまわりの話題 セマンティック Web は Next Big Thing ? 松尾和洋
IT Topics in the US : Semantic Web is Next Big Thing ? Kazuhiro MATSUO (Fujitsu Labs. of America, Inc.)

542 情報技術と教育 情報技術でオープン化する教育 白井克彦
Information Technology and Education : Opening the Possibilities of Education through Information Technology Katsuhiko SHIRAI (Waseda Univ.)

543 情報社会を理解するためのキーワード 浦 昭二 他 編, 培風館

544 SAINT2004

545 著者紹介一覧
546 会員の広場
548 IPSJ カレンダー
550 人材募集
554 有料会告について

555 おふいすらん
558 アンケート用紙
559 編集室/次号予定目次
560 掲載広告カタログ・資料請求用紙



編集系独白

1949年5月9日のlog bookに"Machine in operation for first time. Printed table of squares (0-99)."と記入し、この日ケンブリッジ大学のEDSAC完成。

そのケンブリッジ大学の計算機センター。薄い反射板の中央を振動させて凹面鏡の焦点を変えつつ、ディスプレイの画像を反射させて立体画像を作ろうと試みた。しかし反射板の発す騒音がひどく(要するにスピーカーなのだ)、諦めたらしい。立体視の夢は今だにいろいろな試みを誘発している。新津靖の「裸眼立体視技術の最新動向」参照。

SoCって? システムオンチップのことで、いろいろな機能を1個のシリコンチップの上に集めたものである。短期間に協調ソフトも含めて設計する最新技法を特集「システムレベルデザイン」(エディタ片岡欣夫, ゲストエディタ荒木大, 黒坂均)から読み取られたい。

SoCの次はSQL。今は文字コード屋の芝野耕司が昔手がけたSQLも早20年の星霜を経た。「SQLの20年と現状および今後の展開(前編)」は規格作業開始のころの歴史を振り返る。

Gapとは(昔からあるのか?)トランプの1人遊び。石畑清のプロムナードはその「Gap」。最近トランプ遊びも画面でやっている人が多い。シャッフルの手間がないもんな。

Wiki。インターネット生活向上委員会は「Wikiで情報共有」(堂前清隆)で、HPに大勢で書き込み、情報共有しようというもの。Wikiのページは一種独特の色調で、すぐにそれと分かる。

先月の慶應義塾に続き、今月の情報技術と教育では白井克彦が早稲田大学の教育と情報技術の関係を説く(「情報技術でオープン化する教育」)。大学がオープン化し、インターネットの講義を聞き、試験がリモートモードなものも時代の趨勢だが、キャンパスや研究室の雰囲気も懐かし。

国家がオープン化したのがEUだ。アメリカとは一味違った連合体だから「電子政府実現に向けての欧州の取り組み」もユニーク。その事情を山岡正輝と廣田和也が解説した。

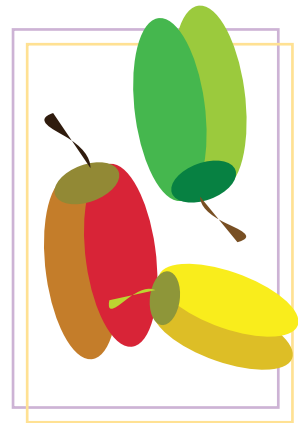
鈴木英之進の「正確な学習よりも得する学習—誤分類コストを考慮する分類学習—(2)解決編」ではサンプリング、クラス、アルゴリズムなど、手や品を変えての問題対処法を説明する。

連載中のスマートタグは素子の話が終わり、規格、実装、普及の話へ移る。日本では村井純が旗振るAutoIDラボと坂村健が引張るユビキタスIDセンターが先陣を争う。今回はまず「Auto-IDラボとその活動」を宇夫陽次朗が紹介。

名著名論。安浦寛人の解説する論理回路設計法の教科書は面白そう。論理回路は素子や実装法で設計法も当然変わる。リレーの時代はリレーの個数を減らすべく、ICの時代は回線長を減らすべく、要請は一変する。成瀬誠の方では、光がVLSIのレベルでも使えるというのも驚きだが、これが1980年代の提案というのもすごい。Fourier光学って光のスペクトルのことかな。

ひろのかずおの「協創時代の知識経営に—知的プラットホーム寸描(2)—」(日本のIT事情)の要はこの進化した世の中では組織化がおおごとだということ。F(n)なる式は実は $n-1C_2$ だからリーダーが自分以外から2人選ぶ場合の数だ。どう理解すべきか。

アメリカITまわりは松尾和洋から「セマンティックWebはNext Big Thing?」が届く。日本で国家プロジェクトを起こし、積極的に情報発信できればよかったというが、永遠の課題なるAIに踏み出すほどには今の日本は元気はなさそう。(1023)



会誌編集委員会

編集長

和田 英一

担当理事

丸山 宏

田中 穂積

本号エディタ

荒木 大

飯尾 淳

石川 佳治

鹿島 久嗣

片岡 欣夫

菊田 泰代

黒坂 均

坂井 修一

佐藤 慎一

鈴木英之進

増井 俊之

安信千津子

山崎 憲一

編集スタッフ

後路 啓子

湯本 祐子

綿谷 亜樹

■ 45巻5号掲載広告目次 (五十音順)

インタフェース…………… 前付5
エッチ・アイ・ティー …… 表4
オーム社…………… 前付3
自動車技術会…………… 目次前
住友電工情報サービス…………… 前付4
SAINT2005…………… 前付最終
ソフト・リサーチ・センター …… 前付6上

日本データバシフィック…………… 前付2
日本電信電話…………… 前付7上
培風館…………… 前付6下
日立製作所…………… 表2,
表2対向
連続セミナー2004…………… 表3

*掲載広告のカタログ・資料をご希望の方は、お名前、電話番号、勤務先または学校名を明記の上、E-mailまたはFaxにてご請求ください。

広告総代理店 (株)精機通信社
E-mail:sei@ss-com.co.jp
Fax(03)3368-1519